

## 2 施設トマト栽培におけるタバココナジラミの効果的な防除対策

### ねらいと成果

西日本のトマト産地を中心に被害が拡大している病害にトマト黄化葉巻病があり、本県では2006年に発生が確認されている。本病の病原ウイルスは、タバココナジラミにより媒介され、株から株へ、ほ場からほ場へと被害が拡大する。被害の抑制にはタバココナジラミの防除が有効だが、本種には複数のバイオタイプ（同種内で生理・生態的に異なる系統）があり、薬剤感受性（薬剤効果）も異なる。国内では、従来系統のバイオタイプBに加え、近年、特定の薬剤の効果が著しく低い新系統のバイオタイプQが発生している。一方、生産現場では、これらのタバココナジラミに加え、オンシツコナジラミが混発している場合が多い。そこで、発生状況に応じた有効な薬剤の選定に役立てるため、農業改良普及センターと共同して各種薬剤の感受性検定を実施し、効果的な薬剤の選定を行った。

### 内容

現地ほ場からコナジラミ類幼虫が寄生しているトマト葉を採取し、実験室内で薬液浸漬処理した後、室温で保管した。効果の判定は、処理葉片からの羽化成虫数で行った。また、同ほ場で採集したコナジラミ類成虫を用い、PCR法（特定の塩基配列の増幅による遺伝子診断）により種及びバイオタイプの判

表 県内各産地におけるコナジラミ幼虫の薬剤感受性

系統名	薬剤名	希釈倍数	採集場所		
			神戸市	姫路市	たつの市
ネオニコチノイド系	モスピラン水溶剤	2000	×	×	×
	ベストガード水溶剤	1000	×	○	×
	アルバリン水溶剤	2000	×	△	×
	アドマイサー水和剤	10000	-	×	△
電子伝達系阻害剤	サンマイトフロアブル	1000	○	◎	◎
	ハチハチ乳剤	1000	◎	-	-
表皮阻害剤	アプロード水和剤	1000	×	-	-
気門封鎖剤	サンクリスタル乳剤	300	◎	◎	◎
	粘着くん液剤	100	×	-	-

※処理時の幼虫数とその後7日間の羽化成虫数合計の関係を無処理を100とする補正密度指数で求め、次のように分類（数値が低いほど効果が高い）

◎：補正密度指数10以下 ○：10～30 △：30～60 ×：60以上 -：検定未実施

定を行った。

その結果、サンマイトフロアブルの効果が安定して高く、ハチハチ乳剤もバイオタイプQ優占ほ場で効果が高かった。サンクリスタル乳剤も効果は高かったが、この剤は薬剤が虫体に直接付着しないと効果がなく、残効も期待できないので注意が必要である。ネオニコチノイド系薬剤の効果は、バイオタイプQ優占ほ場では概して低かった。

### 今後の方針

今回供試した薬剤の他に、他府県では、バイオタイプQの幼虫に対し、アプロードエースフロアブル、コロマイト乳剤、クリアザールフロアブルの効果が高いという報告があり、今後はこれらの剤を含め、供試剤を増やして効果の確認をする予定である。

また、生産現場に応じた防除対策のため、農業改良普及センターで実施できる簡便な薬剤検定手法の確立を目指す。

本病の対策には、感染ルートを絶つことが大切である。それには、薬剤のみに頼ることなく、発病株の処分、0.4mm目合防虫ネット被覆、栽培終了後のハウス内の蒸し込み等の組合せによる、総合的な防除対策（IPMの取組）の実施が望ましい。

田中雅也・八瀬順也（環境・病害虫部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-1222）

#### 採集時の発生状況

- ・神戸市（1ほ場）  
タバココナジラミ（バイオタイプQ優占）
- ・姫路市（1ほ場）  
オンシツコナジラミ、タバココナジラミ（バイオタイプB優占）
- ・たつの市（1ほ場）  
タバココナジラミ（バイオタイプQ優占）